



TITLE:

24時制の悩み

AUTHOR(S):

高城

CITATION:

高城. 24時制の悩み. 天界 1943, 23(261): 101-101

ISSUE DATE:

1943-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168567>

RIGHT:

24 時 制 の 悩 み

24時制は廣く一般社會に普及することによつて意義がある。昨今は鐵道省の指導的な良心に習つて、私鐵は殆んど皆24時制を實施した。もう五年も経てば、殆んど社會の毛細管層まで認識が徹底して、24時制の生活をするやうになると思はれる。

しかし、このためには、もつともつと24時制の、科學的で、合理生活的な意味を知らしめねばならないと思ふ。

24時制は、法令を出してまで強制されたわけではないが、中には、無理解な地方の役人が、届書や願書に午前午後を書いてゐるのを、全く受附けずに返したといふ本當の行過ぎもある由。

當局は、鐵道省が實行してゐるのに24時制の利益と、午前午後の不便との科學的な根據を國民に明示しないため、このような意外な誤解が出て来る。いま國民は來るべき時代のために科學を理解しようと努めてゐる。

近頃は、喫茶店も、うどん屋も、理髮店も、ぜんざい屋も、湯屋も、24時制を使ひ出した。こんな嬉しいことはない。盛り場を歩くと、24時制の時計文字の紙を大通で呼び賣りしてゐる。24時制の普及性は、こんなものである。

たゞ、しかし、これだけを見て、“24時制なんて今更説明するまでもない”と思ふのは、早合點である。世の中には認識の悪い人があるかと思へば、中には、1時より12時までには午前午後もなくて常に13時より始まり24時まで日々2回繰返しつゝ數へねばならぬ“むづかしい御時勢となつなワイ”と思つてゐる御老人も居るのである。

時計面の24時を、“0時”と書き改める人もあるが、まだ、日本國內は、今これから24時制の出發なのである。0時といふ時制は、口で稱へてゐても理解し難いから、これは終に普及しないと思ふ。24時は、一日が24時間になつてゐることを示し、日本の24時制の普及には常に時計面に現しておく方がよい。しかも、文字の位置は盤面の上位で最も良い位置である。フランスや、イタリヤや、ドイツでは、24時制は數十年も前に始められたので、一般國民は今では誰れしも、生れながらに24時制だから、時計面に24時を0時と書いても何の不安もなく、反つて簡素で良いと思つてゐるだらう。こゝまで行くには、我國では、まだ10年も早い。

時計面の文字改良には、1時—12時は知れ渡つたことだから多少省略して書き現はすか、文字を止めて、太い目盛を書いておくのは良い。全く何も表示せず13時—24時の文字だけを書いてゐるのは、御時勢を嘆じた老人のやうな誤解を生む危険があつて、今は尙早に過ぎると思ふ。(高城生——10月29日記)